

北村透谷参考文献目録補遺（1）

鈴木 一 正

要 旨 本目録は、明治二十年代に活躍した詩人・評論家の北村透谷（一八六八～一八九四）の参考文献目録で、これまでに発表した次の三つの目録に漏れた分とそれ以降の三年分（平成十年～十二年）を加えたものである。

- ① 「北村透谷参考文献目録―明治二十二年～昭和十九年―」（『国文学研究資料館紀要』第27号、平13・3）
- ② 「北村透谷参考文献目録―昭和二十一年～昭和五十年―」（『国文学研究資料館紀要』第26号、平12・3）
- ③ 「北村透谷参考文献目録―昭和五十一年～平成九年―」（『補谷秀昭ほか編『透谷と現代 21世紀へのアプローチ』翰林書房、平10・5）

この三つの目録は、先行参考文献目録の増補改訂版というべきものであるが、本目録に収録した文献のほとんどは、先行参考文献目録に未収載のもので、新たに「発掘」した文献も少なくない。この三つの目録に本目録を合わせると、明治二十二年から平成十二年までの百十二年分の目録（発行年月順）となる。

凡 例

一、本目録は、小生が作成した①「北村透谷参考文献目録—明治二十二年—昭和十九年—」(「国文学研究資料館紀要」第27号、平13・3)、②「北村透谷参考文献目録—昭和二十一年—昭和五十年—」(「国文学研究資料館紀要」第26号、平12・3)、③「北村透谷参考文献目録—昭和五十一年—平成九年—」(桶谷秀昭ほか編「透谷と現代21世紀へのアプローチ」翰林書房、平10・5)の三つの目録の漏れた分とそれ以降の三年分(平成十年—十二年)を加えたものである。

一、本目録の構成は、「1 明治二十二年—平成九年補遺」(①②③の遺漏分)、「2 平成十年—平成十二年」(③以降の分)から成る。「2」は、「(1) 単行本」「(2) 新聞・雑誌特集号」「(3) 新聞・雑誌・単行本等所収論文」から成る。

一、排列は、月単位で発行順に並べた。同月内は、著者名の五十音順とし、雑誌等で同時に複数の論文掲載の場合は、掲載順とした。ただし、週刊紙(誌)、日刊紙は、同月内の後に月日順に並べた。

一、タイトルは、原則として目次ではなく、本文のものを採用した。副題(サブタイトル)は、なるべく採用するようにしたが、所収書名の副題は省略した。なお、副題の表記は記載のとおりとした。

一、雑誌等の巻号は、なるべく採用するよう努めた。

一、単行本は「」で示し、雑誌等は「」で示し、叢書名・特集名等、補足の事項は〈〉を用いた。また無署名の場合は、著者名欄に——で表示し、著者名の判明したものは「」内に補記した。その他、必要に応じて注記した。

一、連載・分載の場合は、一括で記入し、著者名の上に*印を付した。

一、原則として、雑誌等の「初出」によった。初出不明、未確認の場合は、単行本所収時のものを記載した。なお、所収書名は、↓「」で示した

一、書評は割愛した。なお、書評については、「北村透谷参考文献目録―書評一覧―」（『時空』第17号、平12・12）として一括して掲げた。

1 明治二十二年〜平成九年 補遺

相馬御風 文学界同人の新運動―北村透谷を中心とする主情的傾向（第5編 明治文学講話）（『新文学百科精講』

後編、新潮社、大3・4）

金子薫園 明治詩壇の変遷（第9編 詩歌講話）（同右）

清原貞雄 人生問題（『明治時代思想史』大鏡閣、大10・10）

戸川秋骨 至純狂熱の人北村透谷（『隨筆』第2巻第4号、大13・5・1）↓『隨筆文鳥』奎運社、大13・6

木村 毅 明治文壇雜事二三（『文芸東西南北』新潮社、大15・4）平9・11に平凡社（『東洋文庫』版

木村 毅 古雑誌の中（『新潮』第24巻第7号、昭2・7）

福田正夫 創始時代から抒情詩の時代へ（『自由詩講座―徹底自由詩への道―』資文堂書店、昭4・5）

大島庸夫 透谷と春月（『詩人春月を語る』海図社、昭7・6）

北村透谷（『詩家故人録』（『女性時代』第3年第9号、昭7・9）

安部能成 明治思想界の潮流―文芸評論を中心として―（『岩波講座 日本文学』岩波書店、昭7・10）

飯高規矩 透谷と樗牛・覚書（『国文学新報』第1年第12号、昭8・8・25）

北村透谷研究 漸次佳境に入る（『国文学新報』第1年第15号、昭8・10・25）明治文学談話会主催、

北村透谷研究会第2回例会の記事

片岡良一 明治大正文学の第一義（『リーフレット明治文学』第1号、昭9・1）

瀧瀬金吾 透谷の幻滅（『明治文学研究』第2巻第7号、昭10・7）

湯地 孝 「春」の形象（『明治大正文学の諸傾向』積文館、昭10・8）

末松慶二 文豪詩碑巡り（『月刊文章』第3巻第6号、昭12・5）

北村透谷（平凡社編『新撰大人名辞典』第2巻、平凡社、昭12・7）昭54・7に復刻版（『日本人名大
事典』と改題）

本間久雄 明治文学の主潮（『文学襍記』人文書院、昭13・6）

日置昌一 北村透谷（『日本歴史人名辞典』改造社、昭13・12）昭48・4に名著刊行会から復刻版。平2・10に講

談社学術文庫版

山室 静 明治文学の精神―透谷と自然主義を中心に―（『現在の文学の立場』赤塚書房、昭14・9）

岡野他家夫 透谷集（『書影巡礼75』）（『日本古書通信』第145号、昭16・9）

沢本孟虎 自殺せる文士 川上眉山と北村透谷（『あの人この人近世人物群像』青山書院、昭17・8）

舟橋聖一 文学的闘志―国の有事と文学―（『読売報知』）（『読売新聞』）昭18・10・8）

島田謹二 明治文学と外国文学との交渉（『読書展望』第2巻第3号、昭22・4）

小田切秀雄 解説（小田切秀雄編『発禁作品集』八雲書店、昭23・9）「各人心宮内の秘宮」「心の死活を論ずる」を

収録

藤井真斎 北村透谷（藤井真斎編『近代文学者辞典』二松学舎出版社、昭24・5）

北村透谷（日本文学研究会編『近代文学者人名辞典』白馬書房、昭24・7）

唐木順三 北村透谷（「自殺について―日本の断層と重層―」（アテネ文庫117）弘文堂、昭25・7）↓『唐木順三全集』第3巻、筑摩書房、昭42・8

北村透谷（現代詩辞典編集部編『現代詩辞典』飯塚書店、昭25・10）

太田三郎 「女学雑誌」研究（三）（『書物展望』第18巻第1号、昭26・1）

久松潜一 透谷（『日本文学辞典』（アテネ文庫171）弘文堂、昭26・9）

三角治助 “北村透谷と速記”について（『季刊衆友』第8号、昭28・1）

野間 宏 青春と革命（野間宏編『青春と革命』（河出新書10）河出書房、昭28・6）「内部生命論（抄）」「厭世詩家と女性（抄）」「楚囚の詩（抄）」を収録

北村透谷（飯野哲二ほか編『新撰日本文学辞典』学燈社、昭28・9）

草部典一 北村透谷（西尾実・久松潜一編『日本文学辞典』学生社、昭29・3）

吉田精一 解説（中島健蔵・吉田精一編『現代文学論大系』第1巻（明治時代）、河出書房、昭29・3）「人生に相渉るとは何の謂ぞ」（徳川氏時代の平民的理想）を収録

吉田精一 解説（青野季吉ほか編『現代文学論大系』第6巻（作家論・作品論）、河出書房、昭29・10）「伽羅枕」及び「新葉末集」を収録

ローマン主義文学運動の先駆者 北村透谷（日本放送協会編『光を掲げた人々』第10巻（日本編5）、

光の友社、昭29・12) ラジオ放送台本

山田 肇 解説(伊藤整ほか編『現代日本戯曲選集』第1巻、白水社、昭30・6)「蓬萊曲」を収録

遠地輝武 解説(壺井繁治・遠地輝武編『日本解放詩集 夜あけの時代』(青木文庫275) 青木書店、昭31・1)「蝶のゆくへ」「雙蝶のわかれ」「眠れる蝶」を収録

北村透谷の「楚囚之詩」(『毎日新聞』昭31・3・19朝刊)〈読書欄〉

三枝博音・野崎 茂 『内部生命論』解題(三枝博音編『日本哲学思想全書』第13巻(芸術文学論一般篇)、平凡社、昭31・7)「内部生命論」「万物の声と詩人」を収録

生松敬三 北村透谷と「文学界」(遠山茂樹ほか編『近代日本思想史』第2巻、青木書店、昭31・9)

勝本清一郎 北村透谷(日本歴史大辞典編集委員会編『日本歴史大辞典』第5巻、河出書房、昭31・12) 昭43・8に増補改訂版

瀬沼茂樹編 厭世詩家と女性／内部生命論(名著解題近代日本思想史)(亀井勝一郎ほか編『国民の言葉 百人百

言集』(現代国民文学全集18) 角川書店、昭33・2)

長谷川泉 浪漫主義の文学論(『近代日本文学評論史』有精堂出版、昭33・3)

平林 一 北村透谷(京大学文学部国史研究室編『日本近代史辞典』東洋経済新報社、昭33・11)

木原孝一 詩・抒情の回復(木原孝一編『ANTHOLOGY 抒情詩』解説、飯塚書店、昭34・3)「雙蝶のわかれ」を収録

中村光夫・白井吉見・平野 謙(座談会)「現代日本文学史」を書きおえて(中村光夫ほか『現代日本文学史』(現代日文学全集別巻) 月報、筑摩書房、昭34・4)

野田宇太郎 解説／日本詩史Ⅰ―新体詩から耽美派まで―（野田宇太郎編『世界名詩大成』16〈日本Ⅰ〉、平凡社、昭34・4）「楚囚之詩」「ゆきだをれ」「はたる」「雙蝶のわかれ」「眠れる蝶」「み、ずのうた」を収録

長谷川泉 近代批評の展開Ⅰ（『岩波講座 日本文学史』第14巻〈近代〉、岩波書店、昭34・5）

吉武好孝 「文学界」をめぐる人々とその他のほんやく家たち（『明治・大正の翻訳史』〈研究社選書〉研究社出版、昭34・11）

川副国基 明治・大正の文学論争（『国文学』第5巻第10号、昭35・8）〈特集 近代評論文学の系譜（第二）〉

吉田精一 北村透谷（泉井久之助ほか『日本文学辞典』数研出版、昭36・1）

秋庭太郎 蓬萊曲（早稲田大学演劇博物館編『演劇百科大事典』第5巻、平凡社、昭36・9）

瀬沼茂樹 近代の文学概念とその変遷―一つの歴史的考察―（『群像』第17巻第2号、昭37・2）↓『近代日本文学の構造Ⅰ』集英社、昭38・3

成瀬正勝 明治の文学観（佐藤勝編『研究と鑑賞 現代日本文学講座』評論・随筆1〈明治期〉、三省堂、昭37・10）「内部生命論」を収録

松島栄一 明治期の評論―その性格と系譜について―（同右月報）

神保光太郎 明治の詩と詩人（村野四郎・伊藤信吉編『現代詩人全集』第1巻〈近代Ⅰ〉、〈角川文庫〉解説、角川書店、昭37・11）「雙蝶のわかれ」「眠れる蝶」「ゆきだふれ」を収録

透谷の『楚囚の詩』二冊で（『図書新聞』昭38・11・2）〈新聞記事〉

伊藤信吉 抒情詩の形成（2）―『抒情詩』『若菜集』登場の環境・北村透谷に触れて―〈抒情の系譜4〉（『国文学』第9巻第5号、昭39・4）

——「八木福次郎」 稀本発掘〔日本古書通信〕第29巻第7号、昭39・7〕『蓬萊曲』『楚囚之詩』を取り上げる

榎本滋民作 『浪漫光茫―北村透谷―』(『風雪36』)(NHK、昭39・12) テレビ放送台本。昭39・12・17放送。出演は山本学(透谷)、八千草薫(ミナ) ほか

中村光夫 近代文学の思想(中村光夫編『文学の思想』(現代日本思想大系13) 解説、筑摩書房、昭40・3)「人生に相渉るとは何の謂ぞ」を収録

森 銑三 北村透谷(森銑三編『明治人物逸話辞典』上巻、東京堂出版、昭40・4)

—— 北村透谷(比屋根安定編『新・キリスト教辞典』誠信書房、昭40・8)

佐古純一郎 個人の尊厳の自覚 北村透谷の『内部生命論』(『キリスト教と文学』(新教新書116) 新教出版社、昭40・11)

山田博光 民友社周辺の文学論争(『苫小牧駒沢短期大学研究紀要』第1号、昭40・12)

増田五良 禿木の絶筆『文学界前後』／『女学雑誌』『女学生』『文学界』『随筆 乱読雑記帳』五典書院、昭41・

5) 目次のタイトルによる。昭60・7にゆまに書房(書誌書目シリーズ19)から復刻版

*小田切進 文学界(明治の雑誌14、15)(『明治文学全集』9、81、月報、筑摩書房、昭41・7、8)

小田切秀雄 日本近代詩の歩み(小田切秀雄編『日本名詩選』(名詩選シリーズ) 学生社、昭41・10)「眠れる蝶」を収録

見田宗介・見田暎子 恋愛・結婚・家庭論の思想史(見田宗介・見田暎子編『恋愛・結婚・家庭論』(近代日本の名著14) 解説、徳間書店、昭41・10)「厭世詩家と女性」「妻美那子への手紙」〔北村ミナ宛書簡 一八九三年八月

下旬、花巻より」(草稿・抄)を収録

—— 北村透谷(高柳光寿・竹内理三編『角川日本史辞典』角川書店、昭41・12) 昭51・5に蔵書版

円地文子 「愛の思想」について(亀井勝一郎・白井吉見編『愛の思想』(人生の本3)解説、文芸春秋、昭42・

1)「厭世詩家と女性」を収録。注解を付す

久山康一 新しい自我の自覚とキリスト教——北村透谷をめぐる——(関西学院大学共同研究紀要)1、昭42・3)

長谷川泉 近代文学評論史概説(長谷川泉ほか編著『近代文芸評論集』東出版、昭42・4)「内部生命論」を収録。

脚注を付す

中野好夫 記録文学について(亀井勝一郎・白井吉見編『心の記録』(人生の本10)解説、文芸春秋、昭42・8)

「親愛なる貴嬢よ」(石坂ミナ宛書簡一八八七年八月十八日、九月三日、九月四日)を収録。注解を付す

八木福次郎 「楚囚之詩」再び三冊分を発見(『日本古書通信』第32巻第9号、昭42・9)

福田善之 青春としかいいようのない実体(福田善之編『孤独なる渴望——模索と彷徨』(青春の記録2)解説、三

一書房、昭42・10)「三日幻境」を収録

F・Y「八木福次郎」この本を探せ!『金の卵』を生む「万象画譜」(『日本古書通信』第32巻第10号、昭42・10)

勝本清一郎 北村透谷(伊藤整ほか編『新潮日本文学小辞典』新潮社、昭43・1)↓磯田光一ほか編『増補改訂

新潮日本文学辞典』新潮社、昭63・1

栖竜山高長寺 北村透谷先生と当山との御縁起大要(栖竜山高長寺、昭43・5)(透谷生誕百年墓前祭資料(昭

43・5・15)パンフレット

小田原市教育委員会社会教育課編 北村透谷について(小田原市教育委員会社会教育課、昭43)笹淵友一監修。小

冊子 (13頁)。小田原市立図書館、昭43・10・24の受付印

北村透谷にゆかりの長泉寺／透谷の眠る高長寺／郷土文化館と二つの碑／北原武夫・井上康文・北村透

谷の生家 (湘南紀行文学同人編『湘南の文学めぐり』(郷土の文学散歩Ⅱ) 富士出版印刷、昭43・10)

重松泰雄 初期浪漫主義の運動 (『明治の文学』(現代の教養42) 桜楓社、昭43・11)

秋庭太郎 解題 (秋庭太郎編『明治近代劇集』(明治文学全集86) 筑摩書房、昭44・3) 「悪夢」を収録

藤木宏幸編 年譜 (同右)

清岡卓行 北村透谷 (清岡卓行編『明治・大正詩集』(日本詩人全集32) 新潮社、昭44・3) 「楚囚之詩」を収録

北村透谷年譜 (同右)

坂元忠芳・柿沼 肇 社会運動と教育—近代日本の教育における人民的発想の歴史的展開— (坂元忠芳・柿沼肇編

『社会運動と教育』(近代日本教育論集2) 解説、国土社、昭44・6) 「国民と思想」を収録

柿沼 肇 北村透谷「国民と思想」解題 (同右)

瀬沼茂樹 作品解説・作家入門—現代文芸評論小史— (伊藤整ほか編『現代文芸評論集』(日本現代文学全集107)

講談社、昭44・7) ↓『明治文学研究』法政大学出版局、昭49・5

伊藤信吉 解説 (『日本の詩歌』26 (近代詩集)、中央公論社、昭45・4) 「蝶のゆくへ」「眠れる蝶」を収録

八木福次郎 楚囚之詩／鳳雛 (『明治文学書の稀本』(こつう・まめほん7) 日本古書通信社、昭45・11)

勝本清一郎 北村透谷 (『世界大百科事典』(1974年版) 7、平凡社、昭47・4)

増田五良 星野天知著『黙歩七十年』の中から (『明治本縁起』増田五良、昭47・5) 「天知の語る北村透谷」を含

む。昭60・7にゆまに書房(書誌書目シリーズ17)から復刻版

平岡敏夫 厭世詩家と女性／北村透谷／文学界（伊東一夫編『島崎藤村辞典』明治書院、昭47・10）昭57・4に新訂版

石坂ミナ／エマルソン／楚囚之詩／透谷集／透谷全集／蓬萊曲／我牢獄（同右）

野村 喬 解題（野村喬・藤木宏幸編『近代文学評論大系9』（演劇論）角川書店、昭47・11）『劇詩の前途如何』を収録

大久保典夫 日本文学における天折の系譜（大久保典夫ほか編『天折』（叢刊 日本文学における美と情念の流れ）解説、現代思潮社、昭48・2）『蓬萊曲（抄）』を収録

酒本雅之 アメリカと日本のロマンティズム エマソン、ホイットマン、透谷の場合（亀井俊介編『異質文化の衝撃と波動』（日本とアメリカ比較文化論1）南雲堂、昭48・3）

野島秀勝 自我と自然——太平洋の両岸で（同右）

宮坂 覚 「北村透谷」〈笹淵友一教授著書解題〉（『上智大学国文学論集』7、昭49・1）

村松定孝 「浪漫主義文学の誕生」（同右）（同右）

江頭彦造 「『文学界』とその時代」（同右）（同右）

越智治雄 『蓬萊曲』の世界像（日本放送協会編『日本の近代文学』（NHK大学講座 文学1）NHKサービスセンター、昭49・4）昭49・4よりテレビ放送テキスト

焼き物の町・斎藤冬の純愛（佐々久監修『仙台の散策——歴史と文学をたずねて——』宝文堂出版販売、昭49・8）

平岡敏夫 「春」の藤村（日本放送協会編『日本の近代文学』（NHK大学講座 文学2）NHKサービスセンター、

昭49・10) 昭49・10～50・3テレビ放送テキスト

衣笠梅二郎 バイロン(福田光治ほか編『欧米作家と日本近代文学』第1巻〈英米篇Ⅰ〉、教育出版センター、昭49・12)「バイロンと透谷」を含む

東郷克美 北村透谷(増淵恒吉・小海永二編『高等学校国語科教育研究講座』第6巻〈現代国語(5) 評論・論説〉、有精堂出版、昭50・2)

野村耕三 北村透谷(『日本人の回心 日本キリスト教人物史研究』新教出版社、昭51・3)

北村透谷(三省堂編修所編『コンサイス人名辞典 日本編』三省堂、昭51・3) ↓『コンサイス日本人名事典』改訂版、三省堂、平2・4

磯田光一 バイロンと近代日本(中)〔磁場〕第8号、昭51・4(上)は第7号(昭51・1)

広島一雄 北村透谷(『日本文学案内 近代篇』〈世界文学シリーズ〉朝日出版社、昭52・9)

松本三之介 解説(松本三之介編『明治思想集Ⅱ』〈近代日本思想大系31〉筑摩書房、昭52・11)「人生に相渉るとは何の謂ぞ」「日本文学史骨」「内部生命論」「国民と思想」を収録

辻本雄一 『評論』と北村透谷(『巖本』第50号、別冊1、昭52・12)

磯崎嘉治 「北村透谷・わが冬の歌」試写会を観る(『巖本』第51号、昭52・12)

北村透谷(松田稜編『比較文学辞典』東京堂出版、昭53・1)

法橋和彦 解題(法橋和彦編『トルストイ研究』〈トルストイ全集別巻〉河出書房新社、昭53・3)「トルストイ伯」を収録

鬼頭麟兵 作品解説(シナリオ作家協会編『年鑑代表シナリオ集』1977年版、ダヴィッド社、昭53・6) 菅孝

行「北村透谷 わが冬の歌」を収録

小島資料館「小島政孝」 北村透谷と町田（小島資料館編『小野路・埜津田をあるく 鎌倉街道大山道を訪ねて』

小島資料館、昭53・9）

今井卓爾 初期個人の詩歌書（明治大正 詩歌書影手帖）早稲田大学出版部、昭54・3）

野田宇太郎 小田原の文学（『知られざる魅力 箱根・小田原』読売新聞社、昭54・5）

辻本雄一 透谷の〈維新〉観（『巖本年誌』創刊号、昭54・6）

伊藤信吉 近代詩の流れに沿って（伊藤信吉編『近代詩集（二）』（日本の詩22）（集英社、昭54・12）「ほたる」

「雙蝶のわかれ」「眠れる蝶」収録

北村透谷（神奈川県史研究会編『郷土歴史人物事典 神奈川』第一法規出版、昭55・6）

十川信介 北村透谷（三好行雄・浅井清編『近代日本文学小辞典』有斐閣、昭56・2）

湯浅泰雄 明治青年の自我形成―北村透谷における政治・文学・信仰―（『日本人の宗教意識』名著刊行会、昭

56・6）

沼 謙吉 民権王国 南多摩郡（かながわ自由民権百年13）（『神奈川新聞』昭56・11・6）

巖谷大四 透谷、藤村たちと『文学界』（『文壇ものしり帖』河出書房新社、昭57・1）昭61・6に講談社文庫版

北原由夫 わが国浪漫主義文芸の思想とその形成―特に透谷と藤村を通して―（日本私学教育研究所「調査資料」

第91号、昭57・3）

藪 楨子 北村透谷 生涯と文学／作品鑑賞（和泉あきは編『近代文学』（学術図書出版社、昭57・3）「厭世詩

家と女性」を収録

高田瑞穂 透谷の「内部生命論」考(『日本近代文学の宿命』(国文学研究叢書) 明治書院、昭57・9)

田中清光 北村透谷 人と作品(小海永二編『精選 日本近代詩全集』ぎょうせい、昭57・9)「蝶のゆくへ」「雙蝶

のわかれ」を収録

橋詰静子 北村透谷(谷山茂編『日本文学史辞典』京都書房、昭57・9)

平岡敏夫 北村透谷(平凡社教育産業センター編『日本文学事典』平凡社、昭57・9)

斎藤直人 「透谷論」の転成(1)——桶谷秀昭小論——(『草莽通信』No.11、昭58・3)(2)はNo.12、昭58・5

山田隆信 北村透谷——精神の自由——(伊藤友信ほか編『日本の思想家 名言事典』雄山閣出版、昭58・12)

北村透谷(大岡信ほか編著『日本の詩人小事典』(エナジー小事典 第3号) エッセイ石油広報部、昭59・

6)

涌田 佑 北村透谷と小田原(『現代文学名作探訪事典』有峰書店新社、昭59・7)

北村透谷と民権運動(『神奈川近代文学館開館記念 近代文学100年と神奈川展』神奈川文学振興会、昭

59・10)

佐々木満 「我が牢獄」北村透谷(『文学に現われた罪と罰』矯正協会、昭60・5)

山田博光 民友社と外国文学——「十二文豪」を中心に——(平林一・山田博光編著『民友社文学の研究』三一書

房、昭60・5)『エマルソン』を取り上げる

佐古純一郎 近代日本思想史における人格観念の成立(四)(『論究』第12号、昭60・6)「北村透谷について」を

含む。↓『近代日本思想史における人格観念の成立』朝文社、平7・10

小田切秀雄 北村透谷(相原光ほか編『日本大百科全書』(ENCYCLOPEDIA NIPPONICA 2001) 6、小学館、

昭60・11)

北村透谷 (JAM企画編集部編『近代作家マニュアル50』JAM企画、昭61・1)

佐古純一郎 北村透谷 (キリスト教人名辞典編集委員会編『キリスト教人名辞典』日本基督教団出版局、昭61・2)

石川九楊 蛇行と直行―北村透谷 (『書の交響』筑摩書房、昭61・3) 平10・3に新潮文庫版 (『現代作家100人の字』と改題)

北村透谷 (普連土学園百年史編纂委員会編『普連土学園百年史』普連土学園、昭62・9)

榎林混二 北村透谷 (日本キリスト教歴史大事典編集委員会編『日本キリスト教歴史大事典』教文館、昭63・2)

勝本清一郎 北村透谷 (『世界大百科事典』(1988年版) 7、平凡社、昭63・3)

川村 湊 明治の文学者たちの他界観 (『図書新聞』昭63・6・4)

高堂敏治 透谷体験の解説―上野芳久「北村透谷『蓬萊曲』考」(『船団』第4号、昭63・10)

北村透谷の初出版本 幻の詩集「楚囚之詩」発見 津久井の旧家から文学史に貴重な資料 (『毎日新聞』

〔横浜版〕昭63・11・20朝刊) (『新聞記事』)

北村透谷 (東京都高等学校国語教育研究会編『高校生のための東京文学散歩』教育出版センター、平

1・11)

飛鳥井雅道 「小説」とはなにか (『人文学報』第66号、平2・3) 「透谷の「幻界」論」を含む

高橋睦郎 北村透谷「一点星」〈青春を読む―日本近代詩の流星群 第2回〉(『マダム』通巻第320号、平2・5)

↓「青春を読む 日本近代詩二十七人」小沢書店、平4・11

青木稔弥 「おくのほそ道」二百年 (大阪女子大学国文学研究室編『上方の文化 芭蕉観のいろいろ』(『上方文庫10』

和泉書院、平2・11)「北村透谷と芭蕉」「透谷のメモ」を含む

*伊豆利彦 時代と文学 北村透谷のことなど／戦争の時代に 透谷と藤村〈近代文学の周辺1、2〉(『民主文学』

第302、303号、平3・1、2)

北村透谷(新潮社辞典編集部編『新潮日本人名辞典』新潮社、平3・3)

川崎 司 透谷と銀座・芝(『巖本』No.121、平3・4) No.119とあるが誤り

田中雅史 北村透谷とコールリッジの詩に見られるイニシエーション的構造(『比較文学・文化論集』第8号、平

3・6)

中尾 勇 北村透谷の島崎藤村への友情／島崎藤村の悩みをいたわる透谷の心(『三島文学散歩』静岡新聞社、平

3・7)

高橋正幸 日本平和機関誌『平和』に関する考察(『桐朋学園大学短期大学部紀要』第10号、平4・1)

田中単之 人生相渉とは何か―三好十郎と松尾芭蕉(『磁界』第2号、平4・5)

大田正紀 北村透谷「厭世詩家と女性」―恋愛の神聖性と罪業―(『日本文学のなかの聖書 第6回』(『いのちのこ

とば』第162号、平4・6) ↓『日本文学のなかの聖書』いのちのことば社、平5・4

篠原昌彦 北村透谷の文学と朝日訴訟―人類普遍の原理をそだてよう―(『生協人』第204号、平4・6) ↓『人権

と福祉と近代文学―北村透谷と島崎藤村、有島武郎の場合―』生活協同組合道央市民生協、平8・6

遠藤誠治 芭蕉と近代文学―自然との一体感を中心に―(浅野晃ほか編『元禄文学の開花Ⅱ 芭蕉と元禄の俳諧』

『講座元禄の文学3』勉誠社、平4・10)「北村透谷」を含む

石塚政吾 『破戒』試論―北村透谷の視座より―(『上越教育大学国語研究』第7号、平5・2)

北川 透 北村透谷（青木和夫ほか編『日本史大事典』第2巻、平凡社、平5・2）

和泉久子 子規の俳論と崇高サライム（『鶴見大学紀要』第1部（国語・国文学編）、第30号、平5・3）

大竹隆昭 日本人の「自然」観—NATUREが移入される以前と以後（『江戸川女子短期大学紀要』第8号、平5・

3）

尾西康充 北村透谷の「崇高」概念（『広島大学教育学部紀要』第2部、第41号、平5・3）

北村透谷（日外アソシエーツ編『詩歌人名事典』日外アソシエーツ、平5・4）

藤 一也 藤村と透谷の一関（及川和男ほか編『島崎藤村と一関』（島崎藤村一関會遊百年・没後五十年記念）文学の蔵設立委員会、平5・12）

千葉 貢 島崎藤村『春』考—透谷の受容—（『高崎経済大学論集』第36巻第4号、平6・3）↓『近代』と關つた人びと—作家・作品論考—（高文堂出版社、平6・9）

北村透谷の素顔を追って… 地元小田原がはぐくんできた「早すぎたい逸材」とは（『西湘リビング』平6・4・23）（〈新聞記事〉）

長谷川つとむ ファウストの翻案アラカルト（『大衆文学研究』第103号、平6・6）（特集 翻案小説）

中山昭彦 死の歴史Ⅱ物語—明治後期の「文学者」の死の報道—（季刊『文学』第5巻第3号、平6・7）

谷口孝男 ある透谷論（『純文学』的現在—JCA出版、平6・10）

紅野敏郎 北村透谷「一生中最も惨憺たる一週間」（『日本近代文学館編』複製 近代文学手稿100選—解説・解題—（二玄社、平6・11）「一生中最も惨憺たる一週間」（複製）を収録

小谷野敦 他者とは何か（鶴田欣也編『日本文学における（他者）』新曜社、平6・11）

西村博子 透谷のドラマトゥルギー・再論〔河南論集〕第1号、平6・12)

色川大吉 世界からみた明治の思想―北村透谷論の現在から―(西川長夫・松宮秀治編『幕末・明治期の国民国家形成と文化受容』新曜社、平7・3)

岡崎 明 小田原文学館開設と北村透谷没後百年祭のこと(『新日本歌人』第50巻第3号、平7・3) ↓『風たつ街に』岡崎明、平10・5

岡田隆彦 象徴とメタファーによる自己実現 詩人・北村透谷の場合(日本記号学会編『記号の力学』(記号学研究15) 東海大学出版会、平7・3)

高橋正幸 日清戦争と普連土教会(『桐朋学園大学短期大学部紀要』第13号、平7・3)

水野 洋 日記『秋詠笛語』論―透谷から啄木へ―(『国際啄木学会会報』第7号、平7・8)

西野嘉章 墨ベタ『蓬萊曲』(北村透谷)〈装釘考1〉(『UP』第25巻第1号、平8・1)

内田四方蔵 北村透谷と島崎藤村(『武相学誌』第16号、平8・4)

上田 博 透谷から遠く、近く 明治文学史の中の『明星』(『啄木について』(和泉選書101) 和泉書院、平8・5)

坂本多加雄 「文士」から「知識人」へ／「人生相渉論争」再考(『知識人―大正・昭和と精神史断章』(20世紀の日本11) 読売新聞社、平8・8)

水本精一郎 『春』に於ける事実と虚構―西行・芭蕉・透谷そして鑑三―(『島崎藤村研究』第24号、平8・9)

小池健男 島崎藤村―批評の姿勢―(同右)

及川和男 藤村と一閑(同右)

黒木 章 シオン城、パイロンそして透谷―『楚囚之詩』論のための序―(『キリスト教と諸学』Vol.11、平8・10)

花崎育代 北村透谷（岩見照代ほか編『樋口一葉事典』おうふう、平8・11）

小寺正敏 北村透谷における政治認識の形成について（『兵庫史学研究』第42号、平8・11）

新井勝紘 北村透谷（近代日本社会運動史人物大辞典編集委員会編『近代日本社会運動史人物大辞典』2、日外アソシエーツ、平9・1）

尾西康充 明治20年代のナショナリズムにおける文学と宗教の動向―北村透谷のトランセンデンタルな批判意識について―（『広島大学教育学部紀要』第2部、第45号、平9・3）

榎林滉二 透谷の悲哀―抒情詩群考―（『佐賀大國文』第25号、平9・3）↓『北村透谷研究 絶対と相対との抗抵』（榎林滉二著作集 第1巻）和泉書院、平12・5

山本貴夫 『三日幻境』を訪ねて／透谷・美那子の出会いの地（『多摩文学紀行』たましん地域文化財団、平9・7）

薄井 清 “火の柱”を抱いた女―「一生中最も惨憺たる一週間」の美那子―（『町田地方史研究』第12号、平9・9）

高橋直美 北村透谷と宮沢賢治（『群馬近代文学研究』No.18、平9・9）

松本良彦 北村透谷碑（『文学碑をたずねて』日本図書刊行会、平9・9）

北村透谷（日本史広辞典編集委員会編『日本史広辞典』山川出版社、平9・9）↓『日本史人物辞典』山川出版社、平12・5

山口 博 北村透谷（『近代の文学』愛育社、平9・10）

木村 礎 北村透谷の社会認識（『少女たちの戦争・年譜』（木村礎著作集11）名著出版、平9・11）

小寺正敏 北村透谷における文学と政治の内面的関連について―初期文学評論の政治思想的考察―〔兵庫史学研究〕第43号、平9・11

野山嘉正 はじめに―小説の混沌へ(北村透谷『楚囚之詩』自序)―〔近代小説の成立―明治の青春―〕岩波書店、平9・11

2 平成十年～平成十二年

(1) 単行本

尾西康充 『北村透谷論―近代ナショナリズムの潮流の中で―』(明治書院、平10・2・28)

佐藤善也 『北村透谷と人生相渉論争』(近代文芸社、平10・4・30)

桶谷秀昭・平岡敏夫・佐藤泰正編 『透谷と現代 21世紀へのアプローチ』(翰林書房、平10・5・16)

槇林滉二編 『北村透谷』(日本文学研究大成)〔国書刊行会、平10・12・24〕

平岡敏夫 『北村透谷と国木田独步―短い生命の輝き』(NHKセミナー 明治文学を読む)〔日本放送出版協会、

平11・10・1〕平11・10・3ラジオ放送テキスト

槇林滉二 『北村透谷研究 絶対と相対との抗抵』(槇林滉二著作集 第1巻)〔和泉書院、平12・5・25〕

北川 透 『詩の近代を越えるもの―透谷・朔太郎・中也など』(詩論の現在Ⅱ)〔思潮社、平12・9・10〕

(2) 新聞・雑誌特集号

* 「北村透谷研究会々報」〔第8～10号、平10・6、11・6、12・6〕

特集 北村透谷 〔「神静民報」平11・5・15〕

特集 北村透谷 (「NEW感情」 No.17、平12・1)

(3) 新聞・雑誌・単行本等所収論文

橋詰静子 批判精神をはぐくむ―北村透谷の生き方を辿る (「児童心理」第52巻第1号、平10・1)

小田切秀雄 人生の大事―北村透谷から樋口一葉へ (「日本文学の百年5」 (「東京新聞」平10・1・23夕刊) ↓「日

本文学の百年」東京新聞出版局、平10・10

桜沢一昭 待望の書出づ―渡辺奨氏『石阪昌孝とその時代』の出版を祝す (「町田ジャーナル」第550号、平10・

1・25)

鈴木一正 透谷の蒙軒学舎入学説再考 (「時空」第12号、平10・2)

*鈴木一正 最近における透谷研究文献目録 (17) (19) ―平成九年―十一年― (「時空」第12、14、16号、平

10・2、11・5、12・4) (18) から「北村透谷参考文献目録」と改題

西村博子 北村透谷「蓬萊曲」 (日本近代演劇史研究会編『20世紀の戯曲―日本近代戯曲の世界』社会評論社、平

10・2)

橋詰静子 (「近代テクスト学」の誘惑 (「日本近代書誌学協会会報」第3号、平10・2)

上山和宏 (「蝶三篇」についての考察 (「文研論集」第31号、平10・3)

川添 猛 透谷祭のことども (「おだわら―歴史と文化―」第11号、平10・3)

許 培寛 エマソン思想における汎神論的要素をめぐって―透谷との関連を中心に― (「文学研究論集」第15号、

平10・3)

高澤秀次 北村透谷「恋愛」という思想の普遍性 (「海を越えた知識人達―近代日本の冒険1」 (「発言者」第47号、

平 10・3)

竹田日出夫 『罪と罰』と北村透谷 (『武蔵野女子大学紀要』第33(1)号、平10・3)

西谷博之 神々を統べる神―富士登山の意味するもの― (『女子聖学院短期大学創立30周年記念論文集』〔女子聖学院短期大学紀要第30号〕平10・3)

清水 均 ある詩的交響―北村透谷と中原中也― (同右)

西村絢子 石阪美那子と自由民権運動 (『自由民権』第11号、平10・3)

野口武彦 北村透谷 (廣松渉ほか編『岩波 哲学・思想事典』岩波書店、平10・3)

野山嘉正 北村透谷と現代―蒙軒学舎に触れつつ― (『山梨の文学』第14号、平10・3)

宮里立士 明治日本の「元氣」―北村透谷「国民の元氣」論を通して― (『成蹊人文研究』第6号、平10・3)

山田謙次 「内部生命論」に関する一考察―「内部の生命」の観念内容について― (『比治山大学現代文化学部紀要』第4号、平10・3)

阿毛久芳 北村透谷―『楚囚之詩』から蝶の詩へ (和田博文編『近現代詩を学ぶ人のために』世界思想社、平10・4)

山口 博 闘う青春・北村透谷 (『近代化の中の文学者たち―その青春と実存―』愛育社、平10・4)

*樋口 覚 徳川氏平民思想論 (一、二) (『現代詩手帖』第41巻第5、6号、平10・5、6)

透谷の三絃論／透谷の「理想」と江戸歌謡

平岡敏夫 北村透谷「内部生命論」(『書架散步』〔「赤旗」平10・5・4〕)

*五十嵐誠毅 『一夕観』詳解―〈妙変〉論のコスモロジー― (『透谷』妙変論) (『語学と文学』第34、35号、平

10・6、11・3)

岡田正子 北村透谷「蓬萊曲」考―「大魔王」の意味するものを主軸として―（『日本文芸研究』第50巻第1号、平10・6）

尾西康充 北村透谷『井上博士と基督教』論―メソジスト的「ポジチーブの道德」に対する「学者」擁護論の展開―（『三重大学日本語学文』第9号、平10・6）

川村 湊 「魔」的なものの現在（『北村透谷研究会々報』第8号、平10・6）

平岡敏夫 〈夕暮れ〉のない世界―『楚囚之詩』『蓬萊曲』・二元論の問題―／北川 透 近代の内面―輕蔑的眼差しに抗して／藪 禎子 思想としての「生命」／色川大吉 透谷と政治、透谷と民衆

*―― 石阪美那子 〈かながわ20世紀 駆けぬけたヒロイン〉（『神奈川新聞』平10・8・14、15、18）

清水 均 〈恋愛のエロティシズム〉表現の生成―北村透谷・島崎藤村による「感性共有圏」のもたらしたもの―

（『島崎藤村研究』第26号、平10・9）

三津木國輝 近代文学の先駆者 北村透谷（門太郎）〈歴史街道 小田原を愛した人々17〉（『広報おだわら』No.730、平10・9・1）

古田芳江 透谷のカーライル受容―英雄と自然について―（『表現研究』第68号、平10・10）

山田芳則 北村透谷―主体性と共生の倫理的規範の相剋―（『幕末・明治期の儒学思想の変遷』思文閣出版、平10・10）

金原左門 民衆詩派と北村透谷と白秋／透谷没後一〇〇年目の文化の波／文化の土壌づくり（『小田原の文化をよみなおす』夢工房、平10・11）

小寺正敏 透谷・愛山論争における文学概念と政治思想〔兵庫史学研究〕第44号、平10・11)

近藤裕樹 北村透谷における精神的平和思想―雑誌『平和』掲載評論の再評価―〔文化史学〕第54号、平10・11)

藤 一也 藤村と仙台(『若き日の藤村―仙台時代を中心に―』本の森、平10・11)「北村透谷」を含む

山田芳則 陽明学思想の可能性(私のノートから)〔鴨東通信〕No.32、平10・11)

大内清輝 北村透谷「鬼心非鬼心(実聞)」論―題名に付記された「(実聞)」をめぐって―〔立教大学日本文学〕

第81号、平10・12)

片山晴夫 北村透谷『蓬萊曲』論―柳田素雄の像と風流について(分銅惇作編『近代文学論の現在』蒼丘書林、平

10・12)

*橋詰静子 校本「透谷抒情詩歌集」Ⅱ、Ⅲ〔北村透谷詩歌集成〕三)〔目白学園女子短期大学研究紀要〕第35、

36号、平10・12、11・12)

山田謙次 透谷と「徒然草」―明治二十年十二月十四日付石坂ミナ宛書簡草稿の一面―〔日本語文化研究〕創刊

号、平10・12)

後藤和浩 北村透谷(文学と小田原)〔神奈川Y O U楽帖〕第44号、平11・1)

平岡敏夫 (『夕暮れ』のない世界―『蓬萊曲』と『マンフレッド』―(季刊『文学』第10巻第1号、平11・1)

八木寧子 光と神話と私小説 透谷と牧野と尾崎(小田原作家とその風土Ⅰ)(季刊『湘南文学』第25号、平11・

1)

李 淙煥 「鬼心非鬼心」論―「兇殺」を中心に―〔日本文学研究〕第34号、平11・1)

江刺昭子 「透谷の妻―石阪美那子の生涯」補遺〔自由民権〕第12号、平11・3)

黒木 章 『楚囚之詩』の前提―詩語獲得の現場瞥見―（『聖学院大学論叢』第11巻第3号、平11・3）

清水 均 近代文学における、〈僕は自分しか愛せない〉人々―高村光太郎・村上春樹、そして北村透谷―（『緑聖文芸』第30号、平11・3）

竹田日出夫 北村透谷『漫罵』（『武蔵野女子大学紀要』第34（1）号、平11・3）

日沼渥治 露伴〈心のあと〉考（後）（『北海道武蔵野女子短期大学紀要』第31号、平11・3）（前）は第29号（平9・3）に掲載

野山嘉正 詩歌と小説1―近世から近代へ（『近代詩歌の歴史』（放送大学教材）放送大学教育振興会、平11・3）

宗像和重 「時と紙筆とを費やす者」―太田豊太郎の手記をめぐる―（『国文学研究』第127集、平11・3）「一生

中最も惨憺たる一週間」を取り上げる

李 淙煥 北村透谷における「親の愛」（『梅光女学院大学論集』第32号、平11・3）

山田謙次 透谷は「狂」か―在米石坂公歴宛書簡草稿の意味するもの―（『比治山大学現代文化学部紀要』第5号、平11・3）

青木 登 『三日幻境』と東京の山里（『名作と歩く多摩・武蔵野 文学散歩』のんぶる舎、平11・5）

小澤勝美 透谷の〈心内生〉と「民衆」―二宮尊徳と秋山国三郎―（『社会文学通信』第53号、平11・5）（『日本社会文学会春季小田原大会研究発表要旨』）

内田四方蔵 日本近代文学の先駆（『神静民報』平11・5・15）〈特集 北村透谷〉「北村透谷略歴」を付す。「二宮

尊徳翁（抄）」、田熊保行「透谷を憶う」を収録

尾西康充 北村透谷と松村介石―雑誌「三籟」をめぐる考察―（『三重大学日本語学文学』第10号、平11・6）

川島幸希 稀観本の参考古書価 (詩集—明治篇) (古書歴訪18) (『日本古書通信』第64巻第6号、平11・6)

坂部 恵 西洋経験としての「自由」(茅野良男・藤田正勝編『転換期としての日本近代』(叢書 転換期のフィロ

ソフィー第6巻) ミネルヴァ書房、平11・6)

佐藤泰正 透谷・一葉合同の大会を迎えて (『北村透谷研究会々報』第9号、平11・6)

笠原芳光 北村透谷の宗教性／鈴木貞美 透谷の「文学」概念／尾西康充 北村透谷と松村介石／大井田義彰

『文学界』の中の一葉—「大つごもり」を基軸として— (透谷・一葉研究会発表要旨)／関 礼子 明治二十五年上半期の透谷と一葉—『女学雑誌』を補助線として— (同右)／高田知波 「透谷と一葉」に向けて (同

右)／平岡敏夫 透谷・一葉幻想—『罪と罰』の见えない糸— (同右)／藪 禎子 「他界」と「人の世」(同右)／川崎 司 北村みな書簡—櫻井成明宛・明治二十七年十一月七日付— (同右)

小笠原幹夫 北村透谷・与謝野鉄幹における政治意識—『楚囚之詩』と『東西南北』をめぐって— (『くらしき作

陽大学・作陽短期大学研究紀要』第32巻第1号、平11・7)

鳳雛3冊め (古本屋の手帖) (『日本古書通信』第64巻第8号、平11・8)

小倉敏彦 (恋愛の発見)の諸相—北村透谷と日本近代— (『ソシオロギス』No23、平11・9)

平岡敏夫 一葉・透谷・『罪と罰』(『山梨県立文学館館報』第38号、平11・9)

安德軍一 北村透谷とバイロンの詩的交響—『楚囚之詩』と『シヨンの虜囚』— (『比較文学の視座—異文学間の

言語宇宙』梓書院、平11・10)

大田正紀 藤村と北村透谷 (島崎藤村学会編『論集島崎藤村』おうふう、平11・10)

河合 敦 熱烈な略奪愛を悲劇で幕を閉ざした、北村透谷と石坂美那子 (加来耕三ほか『男と女の物語日本史』講

談社、平11・11)

小寺正敏 北村透谷の文学史論の行方と国民観——晩年の思想的課題について——〔兵庫史学研究〕第45号、平11・12)

関谷 博 『我牢獄』の位置——『風流悟』との関連で——〔藤女子大学国文学雑誌〕第63号、平11・12)

中村えつこ 解説〔『NEMO感情』No.17、平12・1〕〈特集 北村透谷〉「春は来ぬ」「地龍子」「み、ずのうた」「眠れる蝶」の解説

井上弘治 かなわぬ恋の構造(序)——北村透谷から朔太郎への試み(同右)

浦島節男 浦島を詠んだ近代の詩歌について〔国語国文教育と研究〕第38号、平12・2)『蓬萊曲』を取り上げる

江刺昭子 恋愛讃美から恋愛葬送へ——厭世詩家と女性(西村汎子ほか編『文学にみる日本女性の歴史』吉川弘文館、平12・2)

川崎 司 北村みな書簡——櫻井成明宛・明治27年11月7日付——〔聖学院大学論叢〕第12巻第2号、平12・2)

亀井秀雄 物語のなかの文学史〔明治文学史〕〈岩波テキストブックス〉岩波書店、平12・3)

木村幸雄 「楚囚之詩」について〔大妻女子大学紀要——文系——〕第32号、平12・3)

許 培寛 透谷の「一夕観」とエマソンの神秘主義思想〔文学研究論集〕第17号、平12・3)

鈴木一正 北村透谷参考文献目録——昭和二十一年—昭和五十年——〔国文学研究資料館紀要〕第26号、平12・3)

田中 実 『文学界』(浅井清ほか編『新研究資料 現代日本文学』第1巻〈小説I・戯曲〉、明治書院、平12・3)

蘭 明 透谷と魯迅——「鬼」の場合——〔立教大学ランゲージセンター紀要〕第2号、平12・3)

平岡敏夫 ゴールドスマスと北村透谷《明治翻訳文学と私》(川戸道昭・榊原貴教編『十八世紀イギリス文学集』)

《明治翻訳文学全集新聞雑誌編13》 大空社、平12・4)

堀部茂樹 北村透谷のエロスの情念とはなにか《文学研究》第88号、平12・4)

堀江泰紹 北村透谷の孫堀越真一氏を悼む《町田地方史研究》第14号、平12・5)《会員追悼特集》

尾西康充 北村透谷と福井松湖―花巻書簡の背景と「心行」療法―《三重大学日本語学文学》第11号、平12・6)

下山嬢子 近代詩の出發／北村透谷《浅井清ほか編『新研究資料 現代日本文学』第7巻《詩》、明治書院、平12・

6)

平岡敏夫 透谷を放送して《北村透谷研究会々報》第10号、平12・6)

佐藤善也 「我牢獄」解読の諸方法／大井田義彰 おのれ／世／いまし―『蓬萊曲』の詩学―／山本直人 透

谷・藤村・勝一郎―明治と昭和の疾風怒濤時代―／清水 均 透谷における「ボエジー」の一面―《表現のエロ

ス》としての韻律志向性―／永淵朋枝 『新生』論―透谷を軸として／出原隆俊 透谷における《狂》／細川正

義 第十六回全国大会をお引受けして

九里順子 北村透谷《朝尾直弘ほか編『日本歴史大事典』1、小学館、平12・7)

佐藤三武朗 明治期精神史に見るシェイクスピア―「オフエリアの歌」の浪漫主義的受容と変容―(秋山正幸ほか

『比較文学の地平―東西の接触―』梓書院、平12・7)

佐藤善也 北村透谷《浅井清ほか編『新研究資料 現代日本文学』第4巻《評論・論説・随想Ⅱ》、明治書院、平

12・7)

佐藤善也 「我牢獄」解読の諸方法(上)《立教大学日本文学》第84号、平12・7)(中)は第85号、平13・1。

(下) は第86号、平13・7

清水茂雄 小田原・箱根の文学 (『文学のふるさと』上、〈以文選書52〉グローバルメディア、平12・7) 「透谷と長泉寺」 「透谷の生家跡」 「透谷の墓」 「透谷追慕の碑」 を含む

古田芳江 北村透谷『エマルソン』論—カーライリアン透谷の終着点として— (『広島安芸女子大学研究紀要』創刊号、平12・7)

三浦雅士 近代的自我の虚構〈青春の終焉—一九六〇年代試論7〉 (『群像』第55巻第7号、平12・7) ↓『青春の終焉』講談社、平13・9

村山精二 北村透谷〈日本代表詩人名鑑—明治・大正・昭和〉／北村透谷『蓬萊曲』〈明治から現代までの代表詩集選〉 (日本詩人クラブ編『日本の詩』一〇〇年) 土曜美術社出版販売、平12・8)

相川直之 「美」の言説における夏目漱石「草枕」の位相—子規・透谷の影響— (『近代文学試論』第38号、平12・12)

鈴木一正 北村透谷参考文献目録—書評一覧— (『時空』第17号、平12・12)

平岡敏夫 韓国日本文学会講演と釜山訪問—〈近代的自我〉と〈夕暮れ〉— (『稿本近代文学』第25集、平12・12)

付記

今回は、これまでの目録に収載していなかった事典(辞典)類の項目などを中心に調査を行った。百科事典については、ほとんど調査が進んでいない。調査を続ける限り、遺漏の文献は見つかるものと思われる。今回、その一区切りのつもりで仮に「補遺(1)」と称してみたが、いまのところ「補遺(2)」の予定はない。